

分類	意見内容（要約）
相談窓口に関する追加意見	アウトリーチの機能については今後も検討していく。
	連携先への同行は、次に繋がるまで必要。
	精神的な脆弱性を抱えている人をフォローするという意味では公衆衛生の視点が必要
	相談員のケアと、教育・トレーニング的な要素も必要
	入りやすい相談窓口、適切な専門スタッフの育成、次の支援・制度へ繋げることが大切
	実際に窓口を設けたら受付をする窓口部分と、当事者が安心して自分の思いを伝えられる空間設計の相談スペースが必要
	相談スペースには個人情報保護するという観点に配慮した空間づくりが必要
居場所機能の必要性について	集まった人たちとの関わりの中で困りごとをキャッチできるような仕組みや空間を作ることができたらよい
	置があると、来談者だけではなく、支援の担い手も普段と違う力がでる。
	最初から常設する必要はない
南側施設、北側施設の機能配置について	相談窓口とは別に、相談に至らない方でも立ち寄ることができるような居場所やサロンの機能が必要。
	南側に相談窓口を集約するとしたら、当初北側で相談窓口が入る想定であったユーティリティスペースをどう活用するかが大事な論点になってくる
	南側に相談窓口を集約するのであれば、北側には困っていなくても行ける機能を配置して欲しい。
	しっかり相談したい場合は南側の相談機能で、しっかり相談するまでの場合は北側で緩やかに繋がっていけるような場として機能したら良いと思う。色々な方が居ることができるような場所ができたら良いと思う。
	居場所とは場所だけでは機能せず色々な工夫が必要。アートなど違う立場の人がいると、人と人とを結びつける場として成り立つ可能性はあるのではないかと。北側の居場所機能と南側の相談機能がしっかり連携できれば、相談に来る前の方をキャッチできたり、相談窓口から居場所を紹介したりできると思う。
	単に空間を開放するだけではなく、専門的な支援に繋がられるような人員を配置することにより、専門的なワンストップ相談窓口と、幅広く課題をキャッチできる居場所機能で連携ができるのではないかと。
南側への集約に対する懸念	これまで北側を前提に議論されてきた事柄（分館や市民館の機能など）が捨象されてしまうのではないかと
	これまでの議論が捨象されるということではなく、幅広く南側で受け止めるという姿勢の表れではないかと
	労働を担当する府と、福祉を担当する市がどれくらい連携できるのか分からない
	南側への集約に意見が一致ということではなく、集約を検討しても良いという意見もあったし懸念事項もあったという形で部会にお戻しするという事で良いのではないかと。
	北側でのワンストップ相談窓口の議論は、釜ヶ崎地域の人々が集まる場であることに加えて分館、市民館の機能もバリアフリー化して集まればよいという希望的なものが結びついたもの。南側で集約できるか危惧している。
	南側1か所で全て解決できるなら良いが、福祉的な就労が労働に馴染むか疑問。

分類	意見内容（要約）
南側施設への提案	南側施設に生活保護の窓口と結核健診の機能を盛り込んで欲しい。
	ワンストップ相談窓口を南側に設けたうえで同じ建物の中に分館の機能を移転するという選択肢を探してほしい。生活保護の窓口を置いているワンストップの施設は日本にはない。
北側施設への提案	北側施設には隣保事業の機能を埋め込んで欲しい。
相談窓口と地域との連携について	支援者がスーパーバイザーを教えるようなところがあれば支援団体間の関係構築にも使える。
	相談窓口の人員と地域の色々な機関の多職種で、技術や知識の底上げが出来たらよい
	潜在的な相談に至る可能性のある人たちに対する予防的な体制を一緒に考えていく場が必要
	相談窓口に続く使いやすい利便性のある支援というものを地域の中で考えていくところまで繋がっていけばよい
	窓口の中だけでなく地域の団体たちと話し合い情報を共有する場が必要。
他都市での居場所機能事例の紹介	尼崎の子育て支援の例では専門的な支援に繋ぐ部分と自由に行ける場所がある、その全世代版があればよいのではないか。
	名古屋の事例では障がいを持った方が働くソーシャルカフェをベースに自由に喋る場や日頃のちょっと困ったことの相談を受けている空間もある。また、リサイクルの取組みなどで人を集める仕掛けを作っている。働く場プラス生活上のちょっとした困りごとを受け止めてくれる場所が併設されている。そのような空間が北側にのぞましいのではないか。
その他の意見	医療機関への連携については、対象者は診断されることを意図していないので、次以降自分で行こうとしない。
	安心して相談できる窓口や、安心な場所というものが心理的・精神的なサポートになる
	新しい仕組みをどう作っていくかは時間のかかることであり就労福祉専門部会や労働施設検討会議で議論していくことになるがこれまで積み上げてきたものが捨象されるものではない
	この地域に障がい者の窓口のようなものが身近にあればよい